

天守閣復興80周年と私

天 守 閣

我家には天守閣竣工記念の寄付者に配られた文鎮がある。嘗て私も太平洋戦争中、学徒勤労動員時、西の丸で働いたので天守閣復興 80 周年を機に昔を辿って見ようと思った。先ず大阪城ボランティアガイドさんの説明を聴くうち「8月14日の我が母校の金蘭会館と乾櫓の被弾は流れ弾だったのでは」と言った途端、其の方は暫く立ち止まり「私もそう思います。私達の知らない事だから資料が出来たらください。」と言われたので、あらためて大阪大空襲、八月十四日等を読み直し太閤会、母校百年史や戦前戦後に詳しい方達のお知恵をお借りして纏めて見た。



豊 公 館

天守のない城

本願寺の時代 蓮如による浄土真宗本願寺派の拠点寺院 石山本願寺（大阪御坊）織田信長との 11 年の抗争で敗北
豊臣時代 秀吉による天下統一の拠点 1615 年大阪夏の陣により築 30 年で焼失
徳川時代 秀忠による再築と西日本支配の拠点 1665 年築 39 年で落雷焼失
新政府による軍事拠点 大阪鎮台→第 4 師団（1 東京 2 仙台 3 熊本）

1925 年（大正 14 年）に、大阪市が人口 200 万人を超える日本一の都市になったのを記念し大正記念博覧会が開催された。大阪城天守台に「豊公館」が作られ、博覧会が盛況裡に終わったので、昭和 3 年大阪市は昭和天皇御大正記念事業として、関一市長の寄付の呼びかけにより（市会の長老達の要望）天守の復興と大阪城の公園化が計画された。

但し、陸軍第 4 師団司令部から“大阪市による経費負担。師団司令部庁舎の新築と寄付。戦時には無条件に明け渡す”の 3 要件がついた。

1931 年 11 月 7 日「昭和 6 年」 266 年ぶりに天守閣が民間の寄付で復興した。市民の寄付 150 万円

建築名称	延床面積 (㎡)	総工費 (円)	[円] /㎡
大阪城天守閣	5,071.87	471,409	92.95
大阪城公園		261,500	
第 4 師団司令部庁舎	6,765.60	800,000	118,25

第 4 師団司令部庁舎の費用は
予算の半分以上を占めた。

寄付については、豊公会理事長の鳥井氏や住友など主だった人々にはその金額が割り当てられたほか一般市民からは各区役所呼びかけ委員を通して受付が開始された結果、住友さんの 30 万円をはじめ総計 78,000 余件に達した。

大小 1 組の末広は記念品として全員に贈られ、10 円以上の寄付者には文鎮が、私の父も記念に戴いた。1,000 円以上の高額寄付者には金杯銀杯が付いたが、戦時中の金供出で残っていない。（犯罪になったが、供出せず残っている家もあるとか）天守最上層の鯨一対は市内瓦屋町の今村家（江戸時代から代々鋳金業を営む）が寄付をしたもので、鯨の原型は今村久兵衛氏の弟で東京美術学校（現東京芸大）彫刻科出身の今村重三郎氏が製作した。

築城に際して

大阪城開放と公園化

郷土への拘り、鉄骨鉄筋とコンクリート造り

豊臣の城への拘り、大阪夏の陣黒田家屏風（小天守を除く）一豊臣大阪城の最後の姿を残している為一

郷土歴史館の魁

新築大阪城の責任設計者は大阪市土木部建築課課長波江^{やす}悌夫氏、古典建築に詳しい片岡建築事務所出身の古川重春氏を加えたが、外観詳細図で折り合いが付かず（桃山様式、懸魚、唐破風等）、京大教授武田五一氏（京大の時計台を設計した建築家）の判断により双方のデザインが反映されたが、最上階の鯨を除き 2 番目以下の鯨では古川氏の主張が

幾分反映されたい。昭和の天守閣は 54.8m で豊臣時代の天守閣 40m よりも高く、西に作られて大きい。小天守は入場料を蓄積して充て約 30 万円と見積もられていた。

天守閣

1931 年 3 月、本丸に陸軍第四師団司令部新庁舎完成、11 月 7 日大阪城公園、大阪城天守閣竣工記念式典挙行。

1940 年 第 4 師団司令部庁舎に中部防衛司令部が入り、第 4 師団司令部は今の豊国神社の場所に移動した。軍事機密を目的として天守閣展望台を目隠しした。

1942 年 天守閣への入場禁止。

1944 年 大阪城空堀から南へ向けて防空壕が作られる。(現在の豊国神社の地下に **3E** 字型に)

1945 年 本丸内に防空壕が作られ、中部軍管区司令部が設置されて此处から『空襲警報発令』の指令が出ていた。
6 月~7 月にかけて大阪城が空襲の被害を受け、天守台南西角の石垣は爆破、北側、東側は炸裂により石垣が飛び出ているが、天守閣自体は奇跡的に直撃を免れた。空襲により隅櫓二番、三番、^{ひつじさる} 坤 櫓、京橋門、京橋口多門櫓、伏見櫓等江戸時代以来の建造物を失い、隅櫓一番から七番のうち四、五、七番は明治維新時代の戦火で焼失、現在残っているのは一番と六番だけである。(6 月 7 日、金蘭会館小破)

八月十四日 大阪陸軍造兵廠壊滅。乾櫓大破。金蘭会館大破。

八月十五日 終戦。

9 月 米軍が大阪城を接收する。

1947 年 紀州御殿焼失(明治時代に和歌山二の丸御殿を大阪城本丸に移す。主瓦は桐紋、黒白書院があり天皇行幸の折には大本営になった)米軍が接收していたので日本の消防車は大手門から入る事が出来なかった。

1948 年 本丸内の中部軍司令部庁舎の接收解除(昭和 24 年より大阪市警察庁、昭和 30 年より大阪府警察本部)を最後に、米軍による大阪城の接收が全面解除される。

1949 年 天守閣が一般公開される。

1950 年 ジェーン台風による被害。

1952 年 現在の森林公園一帯の国有地が大阪市に無償貸与。

1953 年 大阪城域一帯が国指定史跡となる。大阪城内の 13 の古建造物が国指定重要文化財となる。

1955 年 大阪城域一帯が国指定特別史跡となる(「特別史跡 大阪城跡」)。天守閣が博物館相当施設に指定。

1958 年 大阪府警本部移転。

1959 年 本丸の地下から石垣発見(謎の石垣)。

1960 年 本丸内に大阪市立博物館開館(旧中部軍司令部庁舎)・・・平成 13 年 3 月まで。

1961 年 豊国神社が中之島から城内二の丸に遷座。

1965 年 西の丸庭園が開園。

1970 年 西の丸庭園の茶室「豊松庵」が松下幸之助氏から寄贈され披露される。

1974 年 二の丸市^{いちのかみ}正曲輪跡に大阪城梅林が開園(大阪府立北野高等学校が記念植樹)。

1983 年 「築城 400 年まつり 大阪城博覧会」が開催され、大阪城ホール、大阪城公園駅が開業。

1984 年 発掘調査により豊臣時代大阪城の詰めの丸の石垣が発見される。

1986 年 大阪府立大手前高等学校 100 周年記念に大阪城正面大手門前へ築山寄付 1000 万円。

1988 年 発掘調査により豊臣時代大阪城の天守台石垣が発見される。

1997 年 「平成の大改修」が完了し開館。埋め立てられていた東外堀が復元される。大阪城天守閣が国指定登録有形文化財になる。

冬は梅、春は桜、秋は紅葉に老若男女が集い、新緑の大阪城公園、西の丸庭園には、保育園、幼稚園、小学校 1~2 年の生徒達が蜘蛛の子を散らすように、特に西の丸庭園の芝生で組んずほぐれつして命を輝かせていた。外堀に沿ったジョギングは、早朝、昼の時間、夕方、夜と府庁職員、府警、一般、夫々のメニューに合わせて緑陰を走

り、東南アジア、韓国の人達等、外国人の観光客も多い。年間観光客 170 万人。2012 年暮にはお城への延入城者が 9000 万人に達した。

天守閣のエレベーターガイドさんが流暢な韓国語の説明なので、乗り合わせた観光客が褒めておられたのを見て私まで微笑んだ。土曜日の午前中は仮装した秀吉はじめ、**真田の赤鎧兜**、旗指物のボランティアガイドさん 50 人程がビニールのゴミ袋と鋏を持って大阪城公園の清掃、正午からは観光客を交えて太刀合わせ、お茶の点前等で賑わせていた。残念塚を教えてもらい屏風たたみのお堀端を一周。歴史博物館最上階から錦繡の季節の天守閣と石垣はお堀に映えて日本一美しい（姫路・熊本と共に日本の 3 名城）。鍋島家、池田家、前田家、黒田家、松平家、山内家、加藤家など西国大名に割り当て、豊臣よりも大きいものを立派なものをと作らせた石垣。刻印は盗まれないようにとか。唯、島津家だけは免除された（宝暦の治水事件）。

「朝からお城を案内しましたが之だけ立派なものを作ったのに徳川さんの銅像は何処にも無いでしょう。あるのは秀吉さんだけです。矢張り大阪は豊臣ですな。」

寒い日、暑い日夫々の蘊蓄を傾けてくださった大阪城ボランティアガイドさん有難うございました。

- ※ 関市長から大阪城天守閣復興計画を聞かされた波江氏は「出来ると思いますが現在の天守台は明治初年の戦火で花崗岩も痛んでいるし本丸の地盤の耐久力も調査する必要があります 1 週間調べさしてください。若し実現可能とすれば豊太閤時代の様式にしましょう。且つ耐火耐震の不燃建築にしたいですね。」と申し上げたところ「大いに賛成だよ。しっかり調査してくれ給え。そして極秘だよ。」といわれた。戦後、波江氏は天守閣が残ったのを見て「鉄骨鉄筋コンクリートにしておいてよかった。」と涙されたとか。
- ※ 大阪の人口日本一。大阪市歌：「1 番 高津の宮の昔より代々の栄を重ね来て民のかまどに立つ煙 賑わい勝る大阪市～～ 3 番 東洋一の商工地 咲くやこの花さきがけて四方に香りを送るべき努めぞ高き大阪市～～」
- ※ 「大阪夏の陣屏風」(6 曲 1 双) …徳川方に加担した筑前福岡藩主・黒田長政が戦捷記念に描かせたと伝えられ、右隻には豊臣と徳川家康・秀忠の衝突が、左隻には落城後の悲惨極まりない光景が描かれ、平成元年重要文化財になった。別名「黒田屏風」と言われ、なかなか譲って貰えなかった。大阪城天守閣の所蔵品になったのは昭和 33 年である。見所は右隻中央に本来は勝者を画くべきなのだが、真田六文銭の旗指物をメインにしている。
- ※ 宝暦の治水事件…幕府が薩摩藩の財政弱体化を図る為、木曾川三川（木曾、長良、揖斐）治水工事の『お手伝い普請』を命じ、300 里離れた縁もゆかりも無い土地で 947 名を働かせた。費用 40 万両。薩摩藩士 51 名自害、33 名病死し工事完了後、総指揮の家老平田^{ゆきえ}鞠負が自害した。自害、病死した遺体は桑名・海蔵寺その他の寺々の僧が懇ろに弔った。
- ※ 天守閣の施工＝大林組（スカイツリー、通天閣など）。天守閣の鬼門、^{うしとら}「長」（東北）に大林神社がある。
- ※ 石垣の水際が白いのは、堀に 10 年間水道水を入れていたため漂白したとか。外堀は中浜注水場から導入し、内堀は湧水で、藻がゆらぎ、渡り鳥も水浴びしている（梅林の前）。
- ※ 城中焼亡埋骨墳（残念塚、残念さん）…慶応 4 年（1868）1 月明治維新によって旧幕府本拠としていた大阪城が新政府軍に引き渡されるに際し、之を潔よしとしない幕臣達が場内に火を放ち自害したという。新政府軍の主力だった薩摩、長州両藩の有志たちは彼らの遺骨を埋葬し武士の鑑とたたえて石碑を建立した。
- ※ 残念石…大阪城修復の時、天領小豆島で割られたまま用材石としての念願が叶わず今も数多く残されている石。
- ※ 三の丸…東は大阪城公園、南は上本町 2 ～ 3 丁目あたり、西は谷町筋、北はドーンセンターと追手門小学校の一部。大手前高校もこの中に建ち 4.2m 掘り下げると豊臣時代の瓦などが出て来た。造兵廠も此処に建っていた。秀吉の晩年に当たる慶長 3 年大阪城強化の為に作られ、慶長 19 年大阪冬の陣で講和の条件として家康により取壊された。三の丸の野面積石垣はドーンセンター横に発見されたままの姿に復元。日経新聞側には徳川方の石垣の遺構がある。^{のずらずみ}総構の東は環状線、南は空堀、西は東横堀、北は大川に囲まれ、戦闘は南で行われた。

西の丸、学徒勤労働員

1943 年（昭和 18 年 11 月 11 日） 女子挺身隊結成 高女 2 年生

（昭和 18 年 12 月 1 日） 学徒出陣（神宮外苑）

1944 年（昭和 19 年 8 月） 学徒勤労働員で兵器補給廠へ 高女 3 年生

戦争は激化し 2 年生の時、森下仁丹へ短期勤労働員されたが、本格的には 3 年生から。5 クラスのうち 3 クラスは兵器補給廠へ（途中から 1 クラスは電信局へ移る）、2 クラスは御殿山造兵廠へ行った。

大阪城は入城禁止になっていたの、私達は一旦、大手前 100 周年記念植樹前に集まり 4 列縦隊で大手門を潜ってから西の丸、乾櫓、青屋口に分れて勤労働した。西の丸には大阪城公園事務所と同じ赤レンガの倉庫が立ち並び、其の中で部品の手入れは手を汚しながら木箱に梱包。乾櫓も（現 重要文化財）同様の仕事場だった。昼食時間は一緒に食事し、先生は「帰宅したらどんな本でも良いから読みなさい。」これが唯一の授業の言葉。悲しかったに違いない。休憩時間には石垣越しに望郷の思いで学舎を眺め、天守閣を仰ぎ見た記憶は余り無い。

1945 年 3 月 13 日 港区から市の中心部。最初に木造家屋を焼き、精神的ショックを与える作戦だった。
大阪大空襲 6 月 1 日 梅田から南森町、旭区あたりまで。市電は架線が切れ不通だったので梅田まで歩いた。
6 月 7 日 兵器補給廠も焼夷弾、1 トン爆弾の被害を受け、乾櫓も傾き、金蘭会館も小破した。
6 月 15 日 大阪市西方面、西淀川区周辺、此あたりからも大阪城が見えるくらいに焼けた。
8 月 14 日 砲兵工廠壊滅、金蘭会館大破。

被災者は 1 週間の公休があり、金蘭会館は家を焼かれた生徒達の寄宿舎になり、他の動員場所の人達も会館から夫々の動員先に通った。6 月 7 日午前 10 時頃からの空襲は、天守閣に落ちた焼夷弾がカラカラと外壁を伝って落ち、お城の濠の石垣は逃げ惑う人々で補給廠職員は 1000 人のうち 4 人が死亡。金蘭会館も小破した。私達の働き場所はなくなり学校へ戻った。

同学年の方の文章を引用する。～孫たちへの証言～小柳ならみ

『仕事は最初、北 6 号の倉庫内で部品箱の手入れを手を汚しながらしていたが、途中から絵の上手な人という依頼がきて、本部でマル秘の図面に修正箇所を描く仕事に移り、周囲の士官から大事にしてもらった。そのうち戦局は悪化し、1 トン爆弾まで落とされるようになった。私の壕はお城の濠の上の蛸壺壕だった。頭上には〇学氏名の名札が立ててあり、此处で死んだら墓標だと覚悟した。まともや空襲のサイレンで、私はその中に飛び込んだ。両手で耳を押さえ口を開く。地揺れを伴った地響き、監視所からカンカンと「退避」の叫び、壕から飛び出して走る。何度か其の辺の壕に飛び込みながら大手門から城外へ出た。そこに師団司令部の馬用の壕があり、兵隊さんが入れてくれて、馬の鼻息の横でその日の空襲は終わり、私は命びろいをした。私の蛸壺壕のあった一角は跡形もなく崩れ落ちていた。もう私達の働き場所はなくなり、学校へ戻る。金蘭会館で勉強する事になったが、此会館も終戦前日の空襲で 1 トン爆弾の直撃を受け全壊し、その時、生徒は隣の府庁へ避難して全員助かった。』

私達は、「お城の石垣が赤茶け、ひび割れているのは油脂と黄燐焼夷弾で焼けたものもある。」と話し合う。
海拔 25m.の本丸からは市内が一望出来、家の焼けた人は早速帰宅。私は架線が切れ市電が動けなくなった市内を梅田まで徒歩で帰ったが一面焼け野原でまだ熱く或時は国道 2 号線淀川大橋も通行止めになり、不通になった阪神電車淀川鉄橋を徒歩での帰宅は 1 度ならずある。本校生徒に死者は出なかった。

但し両親、特に兄上を亡くされた人も多く、家で空襲に遭い無くなった人は 1 人。疎開した為、戦後大都市復帰規制のため復校出来なかった人もあった。

金蘭会館

兵器補給廠の2組は昭和20年6月7日の大阪城空襲で働き場所がなくなり学校へ戻ったが、高女1年生は20年3月に豊中高女（現・桜塚高校）へ疎開しており、高女2年生も勤労働員。校舎は軍に、別館は府に接収されていたので、会館で国語と英語、2人の先生に授業を受けた（但し英語の先生は教える事が出来なかった）。八月十四日は朝から3回目の空襲で又々廊下伝いに府庁の地下室に避難した（府庁のコンクリート塀は一部取壊され地下室への近道だった）。天守閣と中部軍管区司令部が近くにある府庁も目標にされたかと思うくらいに頭上に爆弾の落ちる音。府庁舎は揺れ、立錐の余地も無い位に人で埋まっている中を伝令が飛び交っていたので生きた心地はしなかったが「お城は駄目か」など囁きあっていた。4時頃、空襲警報解除。地下室を出た時、天守閣が聳えていたので皆でほっと胸を撫で下ろし、廊下を伸び伸びと歩いて校庭へ出て見ると、寸前まで居た会館は直撃弾を受け大破（6月7日にも小破していたが）。西側の3分の1が倒壊。運動場も挟られていた。全員無事。生きた。砲兵工廠は壊滅。同日乾櫓も被弾した。会館と乾櫓は流れ弾だったのではないかと思う。

翌八月十五日は終戦。詔勅は自宅で拝聴した。

8月28日、動員生徒引揚げ式。戦前の教科書を黒く塗りつぶす。寝屋川道場に疎開していた長椅子は講堂へ運びこまれ合同講義。相変わらず農園作業等があったが、12月26日に大手前校舎へ正式に復帰した。

（金蘭会館の歴史）

大手前高校の同窓会館で府より敷地の利用が許され1口5円の寄付。総工費76,000円はその後も寄付金募集や有力者への働きかけで補われ、大林組施工。竣工式は昭和11年4月29日に3階講堂に於いて盛大に挙行。裁縫研究会（大阪府下各高女、兵庫、奈良からも志願）で毎日使用し、クラス会、追悼会、送別会、結婚式場、披露宴会場、昭和14年からは〔家庭寮〕としても利用された。

私達の入学した昭和17年。全校生が本科5学年を中心にして、高等科は別館から、紫色の着物に青桐色の袴の金蘭会生は会館から出てきて校庭に整列した時は、眩しいくらいに華やかな人達だった。

校章は本科は青桐、高等科は紫桐。但しこの光景は1年だけで、戦局が悪化してもう此の姿を見ることは出来なくなった。昭和20年3月13日以降、3階以上は焼け出された生徒たちの寄宿舍に。6月7日以降、1階は私達の勉強室に。8月14日の大阪空襲により投下された爆弾で、西側3分の1が倒壊し新築9年で無残な姿となった。この旧館を知る最後の学年は25年卒と思っていたが、入学式を疎開先の豊中高女で迎えた26年卒が6月7日寝屋川農園に勤労作業の帰路、空襲で京阪天満橋駅舎が焼け、学校に1泊した（物理教室あたり）とかで此人達が旧館を知る最後の学年である。外装のタイルに昔の面影を留めている旧館は、昭和25年になってやっと復旧計画が具体化し図書館となり、1階の2部屋は「補習科」（今日の予備校）通称「金蘭大学」の教室に当てられ、学生の勉学に大いに役立てられた。本校創立70周年記念事業には本格的な改築工事が計画され費用が高額なため会員の寄付だけでは賄いきれず、寝屋川農園の売却費用が充当された。その後雨漏り、床の軋みなど老朽化が著しくなり、大手前100周年記念を機に改築基金3000万円の寄付で出来たのが現在の金蘭会館である。同時期大手前広場の築山にも1000万円寄付。金蘭会セミナー、パソコンスクール、同好会「身近な法律Q&Aゼミ、俳句ゼミ、スクエアダンス」等で利用。金蘭会120周年を記念してエレベーターを設置、母校に寄贈された。同じ卒業生同士、和気藹々とした雰囲気の中、知識欲も満たされる素晴らしい会館である。私は十二分にお世話になっている。

米 寝屋川農園…和風2階建家屋と農園があり全校生徒が農業に従事し、戦時中は御殿山造兵廠に動員していた人達はここを宿舎にしていた。

(あとかき)

- 1、馬用防空壕の事で解らない事があったので小柳ならみさんに電話した。

「母校 100 周年記念築山の北側位と思うけれどネ、横穴壕にいた兵隊さんが馬は大人しいですからといって入れてくださった。馬は尻尾から奥にはいり、私とは目線は同じ高さ。壕をでるときは馬が出てからあなた達が出てくださいと言われてね」あの広場に馬が入れるような横穴壕があったとは。師団司令部の馬ならばさぞかし立派な馬だったのでは？後日お聞きしたら壕は平地に建てた軍馬用だったとか。

- 2、「何処から府庁の地下室に入ったのかしら、まさか正面玄関から入ったのではないしね」あらためて府庁の通用口から地下室にはいってみた。こんな狭い場所に府庁職員と私達 2 組が避難していたとは。目と耳を塞いで学校に近い所で犇めき合っていたのだろう。府庁と学校の堀の間には柵があって行けなかった。

- 3、ボランティアガイドさんに「教えてください」と言われお城の東側の石垣まで連れて行かれた。戦前は皇居遥拝所、戦後は朝の体操の集合場所「あの場所が砲兵工廠でしたか」「わかりません。学校へ帰って聞いてきます」先生にお聞きし位置の確定が出来た。戦時中城東線京橋～森之宮間は両側が遮蔽され、お城も砲兵工廠も目隠しされていた。「アパッチ族はあの辺から盗みに来てネ」等昔話も聞き、お城は仰ぎ見る時代が良いと感一入。

- 4、あやふやな記憶箇所はあの時リーダーだった副理事の米田さん、動員時の 2 クラスの皆さん、パソコンの先生方、金蘭会セミナー、俳句会と誰彼なしにお知恵を拝借した。私達の心身の元気うちに、あの戦争を知る人々に真実を聞けるうちに記録を残そう。2 度とこんな戦争を起こしてはならない。大阪城ボランティアガイドさんに手渡し参考にして貰おうと思った。皆々様ご協力ありがとうございました。 大西千枝子

参考資料 大阪城天守閣復興 80 周年記念特別展 天守閣復興 大阪城天守閣
大阪城天守閣復興 80 周年記念学術シンポジウム 大阪城天守閣
改訂 大阪大空襲 大阪が壊滅した日 小山仁示 東方出版
大阪砲兵工廠の八月十四日 小山仁示 東方出版
金蘭 百二十年のあゆみ 大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会
大手前百年史 大阪府立大手前高等学校
孫たちへの証言 小柳ならみ (株)新風書房

昭和 13 年竣工当時



昭和 20 年 8 月 14 日被弾状態



現在の金蘭会館





鉄骨組み上げ完了
南東方向より



復興天守閣（正面）



原寸大（7 c m）



千成瓢箪と五七の桐紋



天主台南西角の爆破被害



最上層の鯢